

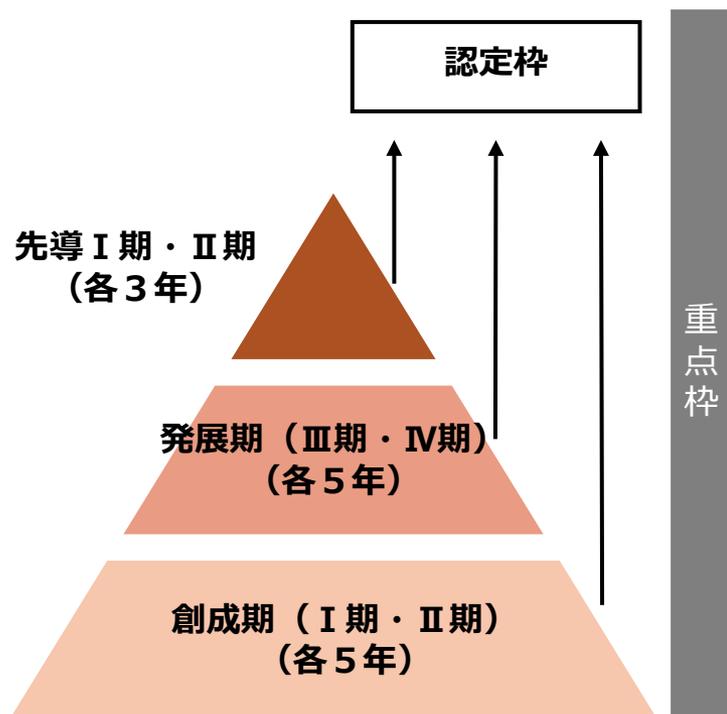
# 今後のスーパーサイエンスハイスクール事業の在り方 (案)

令和7年6月  
科学技術・学術政策局  
人材政策課

# 今後のスーパーサイエンスハイスクール事業の在り方（案）

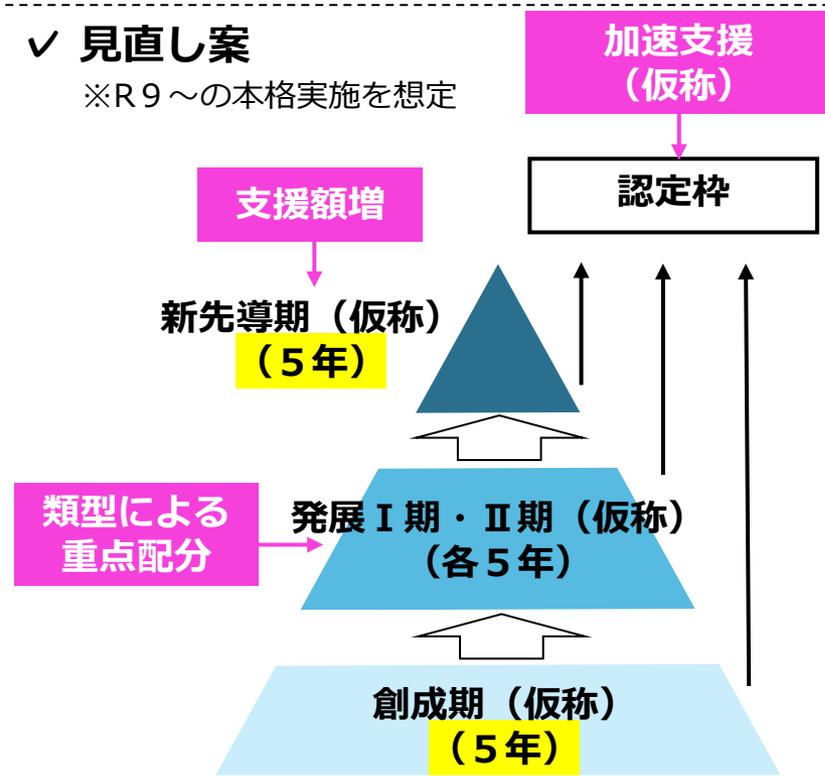
- 指定校が230校に到達し、多様化が進んでいることを踏まえ、全ての指定校を、期に応じて一律の支援額により一律に取り扱う現行制度を見直し、SSH指定校の中に、SSH事業の中で目指す人材育成戦略等に応じた**類型**を設けるとともに、類型に応じて、**申請時に求める到達度や、特に期待する取組等**を設定。支援金額についても差を設けることを検討。
- 課題研究の一層の**深化・高度化**や、**チャレンジングな取組に挑戦**しようとする学校への支援をより手厚くし、**各指定校の取組の高度化、先導期レベルに至るまでの期間の加速**を促す。また、類型の設定を通じ、非指定校等が理数教育の充実に取組もうとする際に、**自らのモデル・目標となるSSH指定校をわかりやすくすることで、成果の横展開の加速**を図る。
- 全体として、創成期から先導期までの財政支援期間を、最大26年から最大20年に短縮する一方で、認定枠指定校に対する「**加速支援**」制度の新設、**先導期や発展期の一部類型への支援金額増**により、**メリハリある支援**を実施。

## ✓ 現行制度



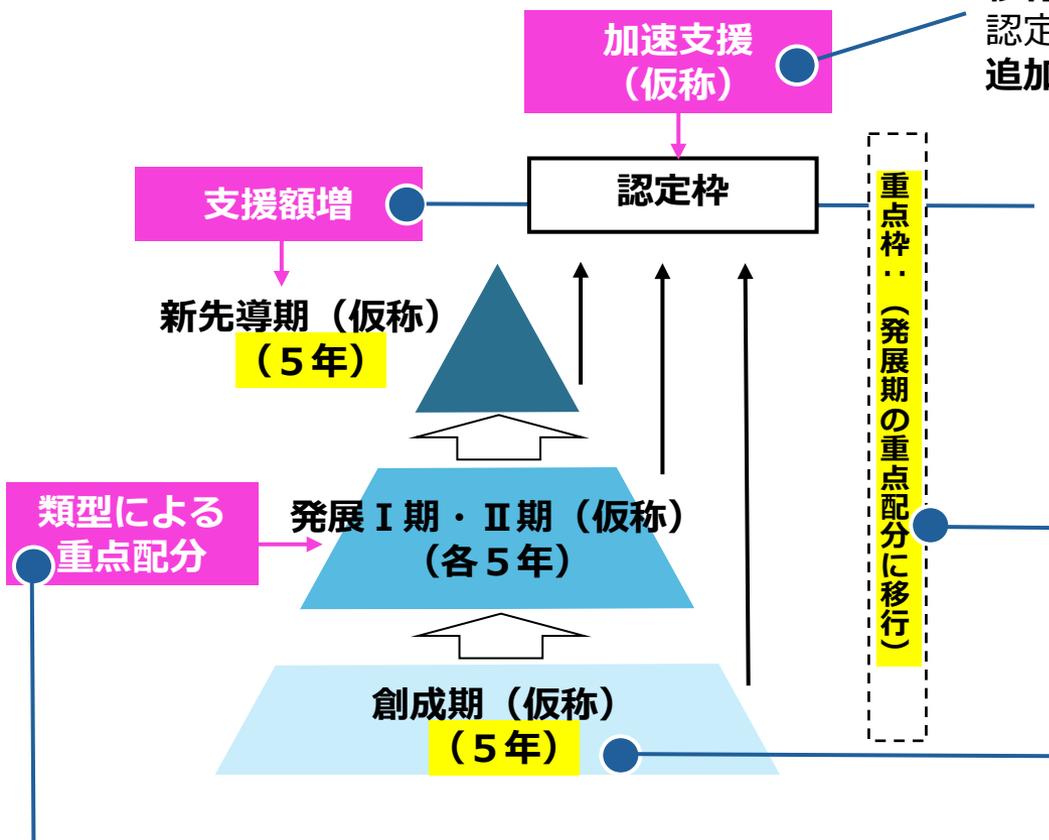
## ✓ 見直し案

※R9～の本格実施を想定



# 今後のスーパーサイエンスハイスクール事業の在り方（案）

## ✓ 見直し案



優れた理数系教育を継続してきた指定校が、認定枠に移行後も取組を高度化していくことができるよう、認定枠の指定校を対象に、その後の状況変化に応じ、追加の研究開発等を行いたい場合の支援を新設。

科学技術人材養成の在り方を先導するような、一部の卓越した取組については、発展期の後も継続して支援。先進的な教育課程の研究開発に腰を据えて取り組むことができるよう、3年間×2期を、5年×1期に再編するとともに、支援金額を増額。

従来の重点枠システムを見直し、これまで重点枠で取り組んできた海外連携や広域連携等に、より多くの指定校が基礎枠の中で取り組むことができるよう、発展Ⅰ期・Ⅱ期の一部の類型に対する重点配分システムに移行。

従来のⅠ期～Ⅳ期を再編し、先導期に至るまでの期間を加速。

発展Ⅰ期・Ⅱ期には、目指す人材育成戦略等に応じた類型を設ける【※詳細は次頁】とともに、支援金額についても差を設けることを検討。

創成期から先導期までの財政支援期間は最大26年から最大20年に短縮となる一方、認定枠移行後もSSH指定校としての優れた取組を継続し、我が国の理数系教育を牽引する学校については、「加速支援」として、追加の研究開発等に対する支援を実施。特に、国内外の多くの他高校等と連携した取組を行おうとする認定枠指定校については、高額の支援の実施も検討。

# 今後のスーパーサイエンスハイスクール事業の在り方（案）

○ 発展Ⅰ期・Ⅱ期については、SSH事業の中で目指す人材育成戦略等に応じた類型を設けるとともに、類型に応じて、申請時に求める到達度や、特に期待する取組等を設定。支援金額についても差を設けることを検討。

## 【類型のイメージ】

SSHの目的：将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成  
理数系の教育課程の改善に資する実証資料の獲得

### 類型①（案）

地域や学校の特色を生かし、科学的な探究活動に全学的に取り組むことを通じて、社会で活躍する高度科学技術人材の育成を目指す指定校

#### <特に期待する取組の一例（案）>

- 「理数探究基礎」「理数探究」等の科学的な探究活動を全校生徒を対象に3年間設定
- 地域や学科の特色を生かした探究活動・課題研究の実施、他校への発信・共有 など

### 類型②（案）

将来、研究職として活躍する人材をはじめ、理数系の知識・技能を活用し、科学的な探究活動を高度に遂行できる人材の育成に特に重点を置く指定校

#### <特に期待する取組の一例（案）>

- 国際交流の積極的な実施
- 大学や企業等との共同研究の実施
- 大学院進学率・進学希望率の上昇、博士号取得者数の増加に向けた取組の強化
- 発展的な内容を扱う理数系科目の開設 など

### 類型③（案）

国際感覚に優れた高度科学技術人材の育成に積極的に取り組むと同時にSSHとしてのリーディングな取組に挑戦する指定校

#### <特に期待する取組の一例（案）>

- 類型①、②の内容に加えて、
- 国際共同研究の積極的な実施
  - 国際会議・大会への参加
  - アドバンストプレイスメントの実施 など

一部の類型については、前期の中間評価において一定以上の評価を得ていること等、申請にあたっての要件を設けることも検討。

## 今後の検討スケジュール

全体的な見直しの方針について、科学技術・学術審議会人材委員会において審議し、今夏の「中間まとめ」において示した後、より詳細な制度設計については、スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議において検討。見直しの本格的な実施は令和9年度を想定しつつ、令和8年度においても一部、先行的な実施が可能となるよう調整を進める。